たたかう人達

生きていると、遅かれ早かれ“たたかい”の中に身を投ずることになります。そのとき、どのような“敵”と、どのように“たたかう”かが重要になるのではないでしょうか。
そこで今回は、「たたかう人たち」をテーマに本を集めてみました。少しでも、あなたの“たたかい”の参考になれば幸いです。

嗅覚障害！とのたたかい

『アノスミア』

モリー・バーンバウム著
勁草書房
936ハ
篠崎ほか所蔵

本書は交通事故でアノスミア（嗅覚脱失）の障害を負った著者の闘病記です。嗅覚で感じる“におい”は、味覚、恋愛、記憶、精神状態など様々な事柄と深く関係していることが分かっています。それにも関わらず、嗅覚に関して解明されてないことは多くあるそうです。この本を読んで、普段どれほど嗅覚に頼って生活しているかを思い知りました。何不自由なく過ごしているからこそ気づけない大切な事を、たくさん教えてくれた作品です。

陰謀！とのたたかい

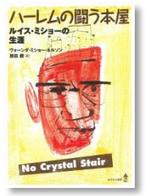
『SPEED』

金城　一紀著
角川書店
F力
篠崎ほか所蔵

家庭教師のお姉さんの自殺に疑問を抱く女子高生の加奈子。落ちこぼれ集団ゾンビーズの助けを借り、真相を探っているうちに、学園祭実行委員長の大きな陰謀を知る。彼女に危機が迫る時、ゾンビーズ直伝のワンツーパンチが火を噴く!!

権力！差別・偏見とのたたかい

『ハーレムの闘う本屋』



ネルソン著
あすなろ書房
J933ネ
篠崎ほか所蔵

1939年、ニューヨークのハーレムに黒人専門書店をオープンさせたルイス・ミショー。「黒人は本を読まない」と言われた時代に、ルイスは本の面白さ、知識の大切さを黒人に伝えるために奮闘します。そんな彼の生涯を描いた作品です。

孤軍奮闘！

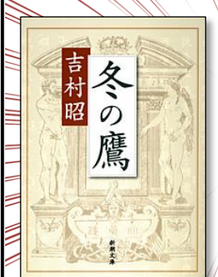
『墨攻』

酒見　賢一著
新潮文庫
BFサ
篠崎ほか所蔵

中国戦国時代。趙（ちょう）の大軍に呑み込まれようとする梁（りょう）の小城に、たった一人で救援に来た墨者・革離。彼は厳しい規則により住人達を統率し、守備戦略を伝授する。強兵と化した住人達は、敵の猛攻を跳ね返す。孤軍奮闘する革離は梁の民を救えるか。

未知の言語！とのたたかい

『冬の鷹』



吉村　昭著
新潮文庫
BFヨ
篠崎ほか所蔵

本書では、無名藩医たちがほとんど独力でオランダ語の翻訳に挑み、「解体新書」を完成させた苦闘物語を、翻訳事業の中心人物だった前野良沢に重心を置いて描いている。良沢ともう一人の訳者である杉田玄白とが、性格・「解体新書」翻訳の目的・その後の人生など全てにおいて対照的なのが興味深かったが、どちらも近代医学の礎を築いた人物であることに間違いはないだろう。

怪我！とのたたかい

『復活の力』

長田　渚左著
新潮社
780オ
篠崎ほか所蔵

怪我をしたスポーツ選手が、どのようにして、夢を諦めず、弱気になりそうな心と闘いながら、並外れた努力で怪我を克服し、栄光をつかみ取ったのか。この本を読むと、人間の復活の力は、必ず存在するのだ、と思わされる。

天才！ゆえの苦難とのたたかい

『闘う物理学者！』

竹内　薫著
日本実業出版社
420タ
篠崎ほか所蔵

生真面目ゲルマンVS不真面目ファインマン、ガリレオVSローマ法王、マーキュリーVS差別……歴史的偉業の裏で起きていた天才物理学者たちの苦労と悩みをわかりやすく紹介。物理とは疎遠な人にも読みやすい一冊です。

徳川軍！との闘い

『幸村去影』

津本　陽著
徳間書店
Fツ
篠崎ほか所蔵

戦国時代の総決算・大坂の陣に、決死の覚悟で大坂方に参戦した真田幸村。大坂城の堀の外側に真田丸という出城を築き、徳川方の兵を散々に打ち負かす。しかし戦いは一時和睦となり、家康の謀略により大坂城は濠が埋められ丸裸にされてしまう。再度開戦となった大坂の陣で、敗戦すると知りながらも最期の最期まで諦めずに闘った幸村。その熱い生き様に心打たれました。

敵兵！とのたたかい

『西部戦線異状なし』

レマルク著
秦　豊吉訳
新潮文庫
B943レ
篠崎ほか所蔵

第一次世界大戦における、若いドイツ兵士たちの友情と死を描いた戦争文学の傑作。顔の見えない敵と、理由も分からず戦うなかで、一人また一人と戦友が亡くなっていく。この小説のタイトルの持つアイロニーは、最後のページで明らかになるが、その意味を知ると、とても遣り切れない気持ちになる。本当に戦争はイカン！

決闘！

『決闘』（「チリの地震」所収）

クライスト著
河出文庫
B943ク
篠崎所蔵

中世ヨーロッパでは、普通の裁判の代わりに決闘の勝敗で事の真偽を決するということがあった。この短編では、一人の未亡人の醜聞の無実を晴らすために、彼女を愛する男が決闘に挑む。剣を手に向かい合う二人。果たして神は正しい裁きを下すのか。

そのメロディに魅せられて♪

「PANTA from 頭脳警察 meets フランク・ザッパ」

フランク・ザッパ　G1700151　篠崎所蔵

芸術という分野において、猥褻や暴力といった表現をめぐる争いは絶えることがない。80年代、音楽の検閲団体PMRCと戦っていた一人がフランク・ザッパである。“道化”と“高度な楽曲”という二面性。ロック、ジャズ／フュージョン、前衛音楽などを、横並びで扱うその雑多性。そして彼の才能に集結するスゴ腕のミュージシャン達。唯一無二である。この日本のロックバンド「頭脳警察」のPANTAが選んだ曲は、初期のものが中心（この人も色んな意味で戦ってたなぁ（笑））。入門に良いかと。